

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月18日

協議会名: 音更町地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 音更町地域内フィーダー系統確保維持計画

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
音更タクシー有限公司	予約制乗合タクシーの運行 起 点:音更タクシー前 経 由:音更・木野市街地 終 点:木野農協前 実績運行日数:241日 実績運行便数:549便	利用者の増加及び利用促進を目的に無料乗車券の配布を予定していたが、新型コロナウイルスの蔓延により中止した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 令和3年度の散居形態の農村部における公共交通への満足度増加目標値が70.0%であるのに対し、11月29日(月)～12月24日(金)に行った利用者満足度アンケート調査(実利用者12人回答)では普通～満足と回答した人の割合が100%となり、目標を達成している。	利用者の増加や利用促進に向けた取組を実施し、持続可能な運行を目指す。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月18日

協議会名：	音更町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	音更町地域内フィーダー系統確保維持計画
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>音更町のバス路線は、十勝バス株式会社が音更線、十勝川温泉線、上士幌線及びぬかびら線の4路線を、北海道拓殖バス株式会社が緑陽台・雄飛が丘団地線、中鈴蘭線、然別湖線、鹿追線、新得線、柏林台音更スクール線、上士幌線及び音上線の8路線を運行しており、通学や帯広市への通院、買物等で利用する学生や高齢者にとって不可欠な交通機関となっている。また、本町・市街地においては、町が上述の両バス会社と協定を締結し、町内の主要な公共施設などを連絡するコミュニティバスを運行しており、町民の日常的な移動手段として重要な役割を果たしている。</p> <p>一方で、農村部では公共交通を利用できない空白地帯が存在し、自家用車による移動が困難な高齢者や運転免許を持たない方などの移動が制約され不便な生活を強いられていた。</p> <p>このため、今後の少子高齢化の進行による交通弱者の増加や、町内における公共交通空白地帯の存在等を踏まえ、効率的で持続可能な公共交通の確保や、公共交通の利便性の向上を図ることを目的として、農村部における予約制乗合タクシーの導入を行ったところである。</p> <p>以上のような状況を踏まえ、地域公共交通確保維持改善事業により、音更町内における公共交通手段を維持・確保するとともに、地域住民の買物や通院などの日常生活の移動確保や地域間幹線系統等との接続による広域的な移動支援などを図り、住民の生活の足としての公共交通を存続させていく必要がある。</p>